

## 第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

生命保険の大切さ

静岡県 静岡市立大里中学校 一学年

佐々木 颯杏

「もうそろそろ起きなさい。部活に遅れちゃうでしょ。」  
まだ朝の七時前だというのに、母の大きな声が家中に響き渡ります。  
私は朝がとにかく苦手なので、毎日この大きな怒鳴り声がないと、  
とても困るのです。

そんな元気な母も、約四年前には乳ガンの治療で大変な時期を過ぎました。私は当時まだ小学三年生でしたので、事の重大さなどわからず、『お母さんはガンという病気になってしまったんだ』ぐらいに考えていました。

私の家は母の収入で成り立っているので、母はとにかく仕事を休まなければいけないことをとても心配していました。

あれは手術の日が決まり、入院中私たちが困らないように色々準備をしていくれた時です。母は、当時中学二年生の兄と私を呼び、これから数週間のことと、今後気にとめてほしいことを話してくれました。その中には保険についての話がありました。その時の話を兄に聞き直したところ、

「あなたたちのお爺ちゃんが肺ガンで亡くなった時は仕事がとても大変な時期で、掛けていた生命保険を全て解約してしまつてね、その数カ月後に病気がわかって、金銭面でとても大変な思いをしたの。だからもしこれからお母さんに何かあつてあなたたちの手助けをできなくなったり、成長を見届けられなくなつたとしても、保険だけは自分たちで加入しなさいね。絶対に困ることはないから。」  
と云っていたそうです。

母は、私がまだ幼い頃、半年ほど保険の営業の仕事をしていたことがあり、それなりに保険についての知識はあつたそうです。しかし家計のことを考え、掛け捨ての安い保険にだけ加入し、ガン保険には加入していなかったの、とても後悔をしたそうです。病院で知り合った同じ病気で闘うお友だちは皆、きちんとガン保険などにも加入し、一時金や放射線治療などでも給付金が出て、中には抗ガン剤の副作用でカツラが必要になつた場合、その費用が出る保険もあり、とても羨ましく思つたそうです。母も抗ガン剤治療をしたの

## 第55回中学生作文コンクール

でカツラは必須でした。しかし、高額なのですぐに用意はできず、髪の毛が日々抜け落ちてしまう姿にまだ小学生の私が怖がり、泣いたことを申し訳なく思ったそうです。そんな母の経験と思いから保険の大切さ、病気になるって困ってからは加入が難しいことを伝えなかったのだと思います。

母は、今もまだ投薬治療を続けています。あと五年以上は続くようです。その薬も高額なので

「ちゃんとガン保険に入っていれば一時金も出たから今頃は助かっていたんだろうな……」

と時折愚痴を言います。

“備えあれば憂いなし” 生命保険とは、この言葉の通りだと思います。

ホルモン治療の副作用でホットフラッシュがあるので、この夏も毎日「暑い暑い」と汗を拭きながら私たちの為に朝から大声の母。

『ごめんね、自分で起きられなくて。でもこれからは少しずつ頑張ってみるね』

と心の中で私は言ってみました。